

第1回先進的まちづくり大賞 都市みらい推進機構理事長賞 受賞者：川西市（兵庫県）

取組名：川西市キセラ川西地区 キセラ川西整備事業－「PFIと低炭素と市民参加のまちづくり」－

受賞理由：数事例に留まる区画整理におけるPFIの採用及び全国初の低炭素まちづくり計画の両輪での取組。基盤整備に加え、まちづくりコーディネーター業務や多様な主体からなるプラットフォームの形成を通じ、利用者自らが主体となるまちづくりを実現するまでに進化し、市民が主体的にかかわる魅力的な公共空間の実現、継続的発展が期待できる仕組みを構築、その先進性、独創性、成果が評価されました。

1. 地区の概要と課題

川西市は、兵庫県の東端にあり、大阪から約15km、神戸から約20kmの圏内に位置する。キセラ川西地区（面積約23ha）は、JR川西池田駅及び阪急川西能勢口駅から北へ半径1km圏内の中心市街地の一部に位置しながら公共下水道や都市ガスなどのインフラが未整備の皮革工場の集積地であった。

工場は、昭和60年代からの円高や産業構造の転換に伴う後継者不足に加え、平成7年の阪神淡路大震災での被害も相まって、同年、当該地区の再開発の要望書を提出した。一方、市では皮革汚水を公共下水道に流すための前処理場の維持に要する多額の財政負担が将来的にも大きな課題となっていた。

2. 取組概要

本事業は、一言でいえば工場跡地（ブラウンフィールド）からの土地利用転換で、環境に配慮した次世代型複合都市をめざすこととした。土地区画整理事業による都市基盤の整備（ハード）と、市民参加によるまちづくり（ソフト）を並行して実施することで「地区全体の付加価値の向上」を目的とした。実現する手段として「低炭素社会の構築（キセラ川西エコまち計画）」と「民間活力の導入（PFI事業）」の両輪で実施している。

PFI事業は、3つの業務から構成しており、1つ目は地区のシンボルとなるキセラ川西せせらぎ公園、せせらぎ遊歩道及び道路など都市基盤の整備（都市基盤整備業務）、2つ目は市民ワークショップやエリアマネジメントなどのまちづくり（まちづくりコーディネーター業務）、3つ目は市関連用地の売却と民間マンション事業の誘致（付帯業務）である。整備する施設をいわゆるハコモノではなく都市基盤としていること、ハード業務（施設整備）と並行してソフト業務（まちづくり）を推進すること、市関連用地の売却をマンションの誘致で担保したこと、これらが本PFI事業の特徴といえる。

また、PFIを導入することで公園及び遊歩道の設計、施工、維持管理を一元化して取り扱い、各ステージを通したシームレスな市民参加を可能にし、シビックプライドの醸成に取り組んでいる。

3. 発現した成果

低炭素社会の実現に向けての「キセラ川西低炭素まちづくり計画」、これを達成実現するための「エコまち運用基準」、基準に基づき協議するための「建築行為等の手続条例」を制定し、個別の土地利用に対して建築物の低炭素化や敷地の緑化に協力いただき、それが地区全体の低炭素化につながっている。

また、公園及び遊歩道の整備におけるシームレスな市民参加は、これまでに計64回の市民ワークショップ、約1400人の方々の参加に繋がり、市民のアイデアが行政、住民、専門家などを動かし、市民主体のまちづくりの基礎を築いている。

4. 今後の展開

本事業としては、予定していた道路や公園などの都市基盤整備が完了した。また、公民館や文化ホールなどを併設したキセラ川西プラザがオープン、今後も大規模集客施設のオープンや、医療施設の建設が予定しているなど、着実にまちの成熟に向けて歩んでおり、このまちが川西市の新たなシンボルとなり、市域全体の活性化につながることを期待している。また、エリアマネジメントの実現に向けた様々な取組について、市民が主体となって利活用や管理体制の構築は始まったばかりであり、市民の方々をはじめ事業者等と連携し、継続したまちづくりが行える組織づくりに取り組んでいく。



川西市の位置



キセラ川西地区の位置と概要



キセラ川西せせらぎ公園及びせせらぎ遊歩道



せせらぎ水路での水生生物観察会



里庭エリアでのプレーパーク活動